

今新疆人の信仰界を覽るに、人種の異なるに因り、其の奉する所の宗教も亦同一ならず。即ち滿人、漢人は儒道を以て其の信教とし、交ゆるに道教、佛教を以てするも、概して宗教に冷淡なりと謂ふべし。之に反して蒙古人は喇嘛教を漢回、纏頭回、哈薩克等の各種族は、皆回々教を奉し共に信心堅固なり。

宗教の人心に及ぼす影響の甚大なるは固よりなれども、其の風俗習慣に關係する所も亦決して尠少に非ざるなり。殊に未開民族に於て然りとす。故に、新疆の如き半開若くは未開民族の風俗を知らんとするには、彼等の信奉する宗教の教義、宗規の大略を知悉するの必要あり。

第二節 喇嘛教

喇嘛教の發生地は、往昔の土伯特チベット即ち今の西藏シツタンなり。同教には新舊の兩派ありて、舊派を紅教と云ひ、新派を黃教と云ふ。紅教は其の衣帽紅色を用ひ、黃教は衣帽黃色を用ふるに因りて其の名起る。而して現今一般に行はるゝものは喇嘛黃教なり。其の喇嘛と稱するは西藏語にして、佛の無上師と云ふ意なりと。今喇嘛教